

農作業と音楽。

音楽を流しながら作業すると、なぜかほかどります。
知っている曲ならなおさら。鼻うたうた、アツリして、同じ作業でも
ノリノリでいけます。
おそらく昔から農と音楽は密接な存在だ、たと感じます。
世界中どの国にも作業うたや、4又穫の祝いのうたや、
魚をとったり、木を倒したり、セレモニーや儀式、おそなえ
などをして、音で鳴らしこいました。奏で、祝子。
生きることと作ること、穫ることかイコールで、雨乞いしたり、
晴れを祈ったり、天と直結する為には音楽でトランスするので
音楽にも、仕事かほかどる様には、いっほいとわまる様に。
いっほいとわたよ、神様、天様、ありがとう、という様に
目的が在り、音楽の中に、生活と感謝が宿っていたと思えます。
だから、名人、達人は居たけど、アコは居らず、特別なことでもな
かった様に思えます。ポテ-カードやセキリテ-でびりり
固めて、ピカピカのステージで、ガンガン電氣を使いまくる今の
商業音楽とは目的が違い、君を待っているとか、君をみつめていた
とかそんなのはどうでも良いのだ、と思えます。
とはいつ、80年代などのバリバリの商業音楽に、ついつい
ノリノリになっしまい、あ、もう午前中終りなの。というすばら
しい集中かに、まさか聖子ちゃんや、ジュリーなどのヒット曲が、一役
目かけになっくわるとは思ひもしなかつたです。よく考えたら、
ナツメロを聞いと育った野菜をお届けしている可能性もありますわ。